

2017年4月30日

**差出人:** 小林大三

**宛先:** Higashi Akifumi

「逆もまた真なり」と言われるように、この世は西洋哲学から観た「不条理」が本来の姿であって、「虚数」が存在するように、目に見えない「虚の世界」つまり「宇宙の裏返し」や「人間の裏返し」も存在します。「自我と情報が結合して、意識が生じる」場合の「情報」とは、この「虚の世界」が含まれているわけです。東洋哲学の「因果律」や「易」は、「意識が生じた」あとの確率論と解釈されがちですが、しかし「自然界の一般的な現象」で、「心の形成メカニズム」にも相当するのが、いわゆる「人間の意識」にとって、決して甘美なだけでない、同時に過酷で残酷でさえある『宇宙愛』という抽象性です。ですので、たとえば「病も『宇宙愛』の形態」のひとつだと気づけた瞬間から、「虚の世界」との再融合が始まり、物理的には、それによって不対電子が現れることで、症状の原因となっているラジカル拡大が比較的小さくなり、病が収束に向かうというデザイン（系）も生まれます。

これが、「現代の生命科学である、分子生物学者や脳科学者は、心は、脳にある」という以前に、「『宇宙愛』である”魂”が、脳という物質を超えてコントロールしている」真理であり、また「物質と霊体（＝エネルギーフィールド）の”二元論”を、理解できない」意識の壁にもなっています。

それでは、5月13日と14日で福岡へまいります。お話は、そのどちらか、または2日間に分けて伺えればと存じます。場所は、福岡三信病院内の待合室でお会いし、東さんのご体調に応じて、近くのホテルラウンジなどを検討致します。ご連絡

絡は「私の携帯の番号：090-」から、「奥様の携帯の電話番号：090-」に差し上げます。何卒よろしくお願い申し上げます。お目にかかれるのを楽しみにしております。

2017/04/29

差出人: Higashi Akifumi

宛先: 小林大三

件名: RE: 連絡— 2

「非凡の道」という「呼び方」にも感心しています。「知識人や有識者」と呼ばれる人々は、「西欧の価値観の上に、わずかの価値を付け加える成果を、イノベーションと称して、称賛する」のですが、「西欧の価値観に欠落している、オリジナリティーを提案する、レボリューションには、理由もなく、猛反対する」わけです。「自我と情報が結合して、意識が生じる」というのは、「精神科学である、“本論の公式”」ですが、「“意識が生じる場所”が、“心”」であり、「心は、何所にあるのか?」と言えは、「その場所は、身体の外側である、宇宙にあるし、また、身体の内側（＝胸）にもある」わけです。「この外側にもあるし、内側にもある」という表現を、「物理学者のガモフは、“宇宙の裏返し”というタイトルの絵で表している（＝ガモフ全集；白揚社）」わけです。「私の視点では、“人間の裏返し”」に相当するのですが、「“この現象”は、“自然界の一般的な現象”で、“心の形成メカニズム”」に相当するわけです。「現代の生命科学である、分子生物学者や脳科学者は、心は、脳にある」と主張します。つまり、「物質と霊体（＝エネルギーフィールド）の“二元論”を、理解できない」わけです。

さて、「今回の、私のスケジュールですが、5月10日に福岡に着き、11日が、外来の診療の予定日」で、「その後は、福岡の仮住まいのアパートに居る予定」です。ただ、「非常に狭いアパートなので、自宅で、話をする」ことは、「難しい」わけです。「福岡三信病院という、非常に有名な病院の隣のビル」なので、「できれば、病院内の待合室で、最初に会う」ことが、「私には、都合がよい」ように思います。念のため、「女房の携帯の電話番号：090-」で、ご連絡してください。「話を

する場所は、適当に、小林さんの都合で、近い場所に、決めてもらいたい」です。というのは、「福岡の町に詳しくないし、病院以外で、人に会ったことがない」からです。少なくとも、「数枚の、私の図版だけは、説明をしたい」ですね。よろしく、お願い致します。今回は、「今後、自分の体に、緊急事態が、起こらないことを、期待」しています。

では、福岡で。

2017/04/25

差出人: Higashi Akifumi

宛先: 小林大三

件名: RE: 連絡—2

「超0 講義 = 1 4 本は、保存されている」のですが、「メディア再生用のプログラムに設定しなさい」という「メッセージ」が出てきて、「その設定方法が、分らない」ので、「内容を、確認できない」ですね。福岡に帰ったら、「パソコンの、コンサルタント会社に、相談して見る」ことにします。

「私の論文原稿は、ほぼ、完成し、現在、印刷中」です。「2 部で、1 冊の予定なので、約 1 3 0 ページ」に成り、「紙の補充やインクの補充などが、大変」です。ともかく、「超ゼロという名称が、ピッタリの局面が出てくる」ので、「後日、私の図版を見て、確認」して下さい。

加えて、「先日のメールで、自我と情報が結合して、意識が生じる」という「視点に着目されていた」のにも、「センスの良さに対して、感心します」ね。要するに、「小林さんには、直感的に、ポイントをつかむ、才能がある」のだろうと思います。「私には、存在しない才能なので、私は、セラピストには成れない」ですね。

「理論が専門である」ということは、「相手のことを考えない」し、「自分の中の、複数の人格とだけ、常に、議論することで、理論の統一性や整合性を求める」、いわゆる、「人づきあいが、苦手である」ということです。

だから、「他人の顔色をうかがうような経験が、全く無い」のです。その代わりに、「理論の中身については、どのような質問にも、回答が用意してある」と考えています。

だから、「一般大衆の悩みの相談には、私の理論的な筋書きを、念頭に置き」ながら、「それぞれの、セラピストの自分流で、対処すべきであろう」と考えます。

「小林さんは、気功師でもある」ようですが、「気功師の指先から放射されるのは、“神の光”で、バーバラ・ブレナン女史のケースと同じ、“意志のエネルギー”である」と思います。だけど、「物理学者に、意志のエネルギーの存在を、認めさせるのは、難しい」でしょう。「物理学者を、納得させる」ための、「その定義と、メカニズムは、私の、論文原稿－1に、図解してある」ので参考にして下さい。

最後に、「私のキャリアは、インターネットで、正確に、確認しておく」べきですね。というのは、「一応は、秀才の道を、歩んできた（＝東大医学部・生理学教室の助手も3年間、経験し、国立生理学研究所の研究員で、定年退職）」ように見えるけれども、「典型的な、出世しない過去の持ち主である」からです。つまり、「時流の研究（＝流行）に、関心が、なかった」わけです。「定年後に、自分の理論を確立した（＝だけど、誰も知らない！）」だけなので、「私の名前の利用価値は、理論の内容を知る以外に、殆どない」ということです。では、また。

2017/04/13

差出人: Higashi Akifumi

宛先: 小林大三

昔、清里に住んでいた、超能力者の知花俊彦さん（沖縄出身）から、「超能力で、病気を治せるメカニズムを、研究して、教えてくれ」と頼まれたことがあります。1度だけ、健康食品や医者グループに、頼まれて、彼と2人のペアで、講演会（＝講演）に参加した経験があります。彼の講演会の聴衆は、殆ど、慢性病患者でした。講義に興味があるようには、思えませんでした。定年後、ご無沙汰だったので、「理論が完成したことを連絡しよう」と、インターネット検索しました。しかし、彼は、同年代だったのですが、亡くなっているようで、残念でした。彼の弟子が、活躍しているようですが、私のメール・アドレスでは、どういうわけか、繋がらないです。また、不思議なのは、「ブレナン女史の、フロリダの専門学校を卒業した人が、日本には、10人位いる」ようですが、「私のメールに、まったく、応答しない」ですね。ヒーラーやセラピストという人たちは、事業家ですから、学術研究や理論に対して、どういう価値観なのかが、皆目、分らないですね。「実力があるほど、超能力理論を求める」と「私は思う」のですが。ともかく、「東北大や東大の同級生や友人たちは、私の経験では、西欧科学に習うだけですから、相談相手にも成らない」ですね。

ともかく、小林さんは、元気があるようですから、自分の流儀で、仲間を集めてください。問題は「、西欧の科学の価値観を変える」ことですから、「英語で、論文を書けるグループに、繋ぐ」ことが肝心です。西欧の科学者の方が、この理論には、興味を持つ人が、多いと思うし、逆輸入で、日本に広がる」ハズですね。2本の論文だけの、イントロだけ紹介しておきます。「この、オリジナルな概念の理解」が、先決です。ブログには、30本くらいの論文原稿（＝100枚の図版）があるわけです。

## 「ABSTRACT」

### 「オリジナルな、新概念」の「相互関係」

=01= (物理学と生物学)

= 02= (生命と個体の自我)

=03= (人工知能と脳科学)

=04= (主体の感覚と過去・現在・未来)

=05= (個体の自我と細胞の自我)

=06= (生命科学と超能力)

=07= (心霊治療と意識活動)

=08= (意識の構造と機能)

=09= (見えない情報と可視化されたベクトル情報)

=10= (神の光が湧き出す源泉と霊太陽)

- =11= (能動的な霊体と受動的な肉体)
- =12= (宇宙エネルギーフィールドと人間エネルギーフィールド)
- =13= (神の光の源泉である霊太陽とあの世)
- =14= (物理学のエネルギーと超能力のエネルギーフィールド)
- =15= (見えない霊体と可視化されたベクトル型の霊体)
- =16= (霊体と空間量子)
- =17= (時計のモデルと単位ベクトル)
- =18= (単位ベクトルと意志のエネルギー)
- =19= (時刻を決定する観測者と時間を感じる観測者)
- =20= (見えない神の光とベクトル化された神の光)
- =21= (物理学の今現在と生物学の今現在)
- = 22= (睡眠・覚醒と個体の自我)
- =23= (第3の合成ベクトルである個体の自我と睡眠・覚醒)
- =24= (遺伝子の自我と自我の潜在モデル)
- =25= (ファインマンの仮想実験と物理学的な観測者の実態)

- =26= (超能力が発生する初期段階と個体の自我の潜在)
- =27= (通常のベクトル自我と超能力の光自我)
- =28= (物理学的な物質と生命化された物質)
- =29= (ブレナン女史の7階層の宇宙エネルギーと本論の7階層の空間量子)
- =30= (この世とあの世の境界層と光のグレイディアント)
- =31= (あの世の鋳型情報とこの世の7色の成形情報)
- =32= (この世に向かう力とあの世に向かう力)
- =33= (睡眠と覚醒)
- =34= (あの世の霊情報とこの世の霊情報)
- =35= (引き合う万有引力と反発するダークエネルギー)
- =36= (睡眠・覚醒と万有引力・ダークエネルギー)
- =37= (睡眠・覚醒と鋳型情報・成形情報)
- =38= (あの世の黒い光とこの世の7色の光)
- =39= (暗黒物質と神の光)

=40= (物質を湧き出させるこの世の中心と生命情報を湧き出させるあの世の中心)

タイトルは、「1番目の論文」は、

=[タイトル]=「“今現在”とは、“瞬間”か、それとも、“一生涯”か？」=「“3階層の観測者”を繋ぐ、“時計のモデル” (= 1個の“文字盤”と、複数の“目盛”の、相互関係) 」

「2番目の論文」は、

TITLE : 『**ファインマンの仮想実験から推定できる、自然界の多様な相互関係**』

**東晃史** Akifumi HIGASHI (phD=Tokyo Univ.) メール ;  
[tjrudsu3230@hotmail.co.jp](mailto:tjrudsu3230@hotmail.co.jp)

参考まで。

2017年4月28日

差出人: 小林大三

宛先: Higashi Akifumi

過去のあるデータによれば、職業別に平均寿命が一番短いのが医者で64歳で、逆に一番長い僧侶で92歳だという話をどこかで聞いたことがあります。医者と患者の関係性（縁起）を「人間の寿命という系（関数）」から観た場合、両者の平均寿命はどちらも同じように短いことから、そこにはある種の共鳴が働いているとも言えそうです。これは知花俊彦さんと聴衆との関係とも共通する点として、自身のパワーを何らかの要因で過信する気功師が若死にする理屈とも繋がっているような気がします。

一方、私とは言えば、この業界\_ではめずらしく、宗教を偶像崇拜と結びつけることで思考停止に陥って、利益を毀損している多くの情報弱者のために、「なぜその現象は起こるのか」を理解可能なレベルに落とし込んだ表現を行っていくことが、セルフイメージを損なわない活動につながっています。またその結果から生まれる、価値の交換（＝ビジネス）が、互いの現世における魂の成長につながる大きなひとつの手段であるとも考えています。それと、東さんのメールアドレスが繋がらないのは、メール送信サーバーがhotmailであるために、迷惑メールに振り分けられた可能性が大きいですが、日本の教育課程において、西欧科学に対する「正解主義」に洗脳された大人たちに、一つの正解があるわけではない「解決法や解決に至る道」へ、価値観（内部表現）を変革させるのは大変なことです。

ともかく、『“非凡の道”』プロジェクトの一環として、すでに一部の仲間が開講している『【超脳式】オンラインコーチングプログラム』においても、東さん「の、オリジナルな概念の理解」を紹介して「、西欧の科学の価値観を変える」意識を広めて参りたいです。

もし東さんのご都合がよろしければ、5月13日から15日で福岡出張を組みます。  
その時分のご予定はいかがでしょう？

2017/04/06

**差出人:** Higashi Akifumi

**宛先:** 小林大三

韓国に帰り、お送り頂いた、USB・メモリーのデータは、韓国の自宅のパソコンに、保存してあります。ただ、「韓国で、腹痛に襲われ、急遽、福岡に帰り、再び、原三信病院に入院」して、「本日、やっと、退院」できました。「病名は、腸閉塞（＝ヘルニア）」で、「小腸の一部を、手術で、切除」しました。来週の4月11日に、韓国に渡り、「私のオリジナルの部分だけの解説（＝超能力のメカニズム論）」を、仕上げる予定です。その後、「小林さんの考え方」を、読ませていただきます。

ただ、「私のメカニズム論は、科学」であり、「生命科学の、意識の構造と機能」ですから、「超能力の存在の照明では、ない（＝こういうアプローチが、世間の信用を無くしている原因！）」わけです。「超能力者の、バーバラ・アン・ブレナン女史の、『光の手』（＝河出書房新社）は、超能力を、体得するための入門書」であり、「実用書である」けれども、「ブレナン女史は、物理学者であり、NASAの研究者でも、あった」わけですが、「過去の物理学では、超能力は、説明できない」と書いてあるわけです。

一方で、「超能力者しか、見えない光（＝神の光）の状態に関する、厳密な観察記述が、述べられている」ので、「私の理論は、ブレナン女史の観察・記録を、普通の人でも、見えるように工夫（＝私のオリジナル）して、理論化した内容」です。特に、「彼女の観察で、注目すべきは、あの世に、神の光が湧き出す、源泉が

存在する」という「特徴」であり、「同様な視点は、日本の超能力者であった、高橋真治（＝故人）の観察」においても、「あの世には、神の光を放出している、霊太陽が見える」という「指摘がある」ので、「両者の見解は、全く、同じ」です。「この内容は、自然界の絶対的な倫理を、構築できる基本に成る」と考えられます。「現状の生命科学は、分子生物学」であり、「物理学（＝客体側の観測と分析）の一部」ですから、「主体に関する、記述は、持ち込まない」ことが、「基本哲学」であり、「生命とは何か？」について、「回答を出せない」わけです。「脳科学も、同じ」なのです。

そこで、「生命とは、自我」であり、「自我と情報が、結合する」ことで、「意識が生じる」という「公式が、基本に成っている」わけです。「その前提」として、「遺伝子の自我、細胞の自我、組織の自我、臓器の自我」などから、「個体の自我が、自然科学的（＝数学的に）に、形成される」という内容が、「ファインマンの仮想実験（＝光と物質の不思議な理論；QED（＝岩波書店）」から、「具体的に、説明されている」わけです。そこで、「バーバラ女史の観察結果は、全部、いわゆる、超・ゼロの理論（＝私の呼び方では、“自我の潜在モデル”）に、置き換える」ことができるわけです。だから、「小林さんは、ブレナン女史の観察結果を基本にして、ヒーリングの説明を、再構築する」のが、「最も、効果的であるように、思われる」わけです。

「生命は自我である」という内容は、「従来の生物・医学や心理学などに、革命をもたらす内容」であり、「この視点は、科学者が、超能力を理解しなければ、今後、現状の医学の難題を、打開・克服する、理論も実験も、企画できない」という「主張が、メイン」なのです。

だから、「理解するための、図解が、中心」であり、「ヒーラーが、世間の人に、メカニズムを理解させる」のには、「極めて、効果的である」ために、「大学の教養学部（＝1～2年生）の学生に、この内容を理解させたい」わけです。というのは、「学生が、将来、どの分野（＝理系・文系・人工知能）を、専攻する」としても、「それぞれの分野の『理論化』に役立つ」と考えられます。それは、「意識や、自我の、“行動原理”を示している」からです。

「後期高齢者に成る」と、「想定外の病気に襲われて、計画通りに進まない」ことが残念です。多分、「1か月後には、原稿が、完成する」と思います。その時に、福岡に来ますので、会えることを楽しみにしています。ともかく、「ブレナン女史の本（＝『光の手』）は、読まれるべきである」ように思います。「現状では、彼女は、最高レベルの超能力者である」と思います。

そして、「高橋真治の教えを参考にして、基本に成るところを、自己流に、置き換えた」のが、「大川隆法の、幸福の科学」です。だから、「幸福の科学は、私には、文学に見える」わけで、「科学には、見えない」わけです。その意味でも、「国際的に、著名である、ブレナン女史を、参考にするべきである」ように思います。では、また。

2017年4月10日

差出人: 小林大三

宛先: Higashi Akifumi

お返事ありがとうございます。

物理世界の二本柱である「空間」と「時間」も、常識（科学）とは別の姿をしていることについて、テンプレートン賞を受賞した物理学者のバーナード・デニスパニヤは、「もういいかげんに現実に対する間違っ了解を捨てて、画期的で、しかもより正確な現実を受け入れるべきだ」と述べています。この場合の正確な現実とは、「主体に関する、記述は、持ち込まない」ことが、「基本哲学」である、「物理学（＝客体側の観測と分析）」が、回答を出せない、）超能力のような意識が、物理世界を作り出すような現実のことを言いますが、物理学者たちは、宇宙は従来の物理法則が当てはまらない場所だということを知っているはずで

ただ、少数ではありますが、勇気ある物理学者たちが、自分たちの世界観が実は間違っているかもしれないと考えはじめています。個人的にわたしが言えるのは、「やっところまで来たか」ということだけです。人間というものは、現実をかなりゆがめて解釈しているわけですが、つまり、世界を認識する一つのパターンを確立し、そのパターンに合致しないものはすべて意識から排除するフィルターを装備しています。私たちが取り入れる情報は、現実すべての情報量のわずか100万分の1パーセントの、そのさらに半分でしかありません。

脳科学的に言えば、これは、脳内の神経経路ができあがり、いつも通る道が決まると、もう他の道は通らなくなってしまうからで、もっとも簡単で単純な神経経路を形成し、その道ばかりを何度も通ることになるからです。しかし、その道から見える景色だけが現実ではなく、むしろそれは現実からかけ離れた姿にであって、同じ道ばかり通っていたら、すべての景色を見ることはできません。計算上では、世界を全部見るには821年かかるのに、3分半で見られる景色だけが全世界だと勘違いしているわけです。

でも、東さんやバーバラ・アン・ブレナン女子のような物理学者たちは違う考えを持っています。量子の世界では、物事は段階を踏んで出現せず、瞬時に出現する。つまり、何かを意図したら、意図したのと同時にそれが出現するわけですが、これこそ瞬間（超0）ヒーリングにも通じる基本メカニズムにほかなりません。多くの人たちが自分では、完全に客観的な立場ですべてを見ていると思っているかもしれませんが、実際は偏見のフィルターを通したものしか見れていないのです。

このことは、まさに、「超能力者しか、見えない光（＝神の光）の状態」とは逆に、私たちが五感を使って見るもの、体験するもの、触れるものは、すべて「これを見る」「これを体験する」「これに触れる」という決断の後に出現しています。この順番は絶対に変わりません。この現実に対して、いちばん大切なのは、意識を目覚めさせて、「今ここ」に集中するスキルを磨くほかないわけですが、これは、「自然界の絶対的な倫理を、構築できる基本に成る」スキルにも通じます。

ご推奨いただいた、「ブレナン女史の本（＝『光の手』）」を手にとって感じたのは、「バーバラ女史の（主体）観察結果は、全部、いわゆる、超・ゼロの理論（＝私の呼び方では、“自我の潜在モデル”）で、翻訳する」ための理論構築、すなわち「答えは常に一定でなく、確率（縁起率＝エネルギー回転数によって生まれる波動干渉＝コヒーレンス）によって相互相対的に変化していく様相（諸行無常）」であることを、「生命は自我である」とあるという内容から、再解釈するための原理モデルの必要性です。

それを、「“非凡の道”として、教育現場へ確立させるための仕組み作り」を現在進めている最中です。具体的に、その第一弾で、『新世界ヒーラー、セラピスト解体新書』というレポートを無料配布し、そこに集まった一定の能力を保持するヒーラー、セラピスト起業家たち向けの教育コミュニティを通して、「自我と情報が、結合する」と、「意識が生じる」という「公式が、基本に成っている」ことを理解してもらうための場を提供していきたいと考えています。

こちらは、5月12日の引っ越しが済んでから、福岡に参りますので、そのときにお身体と原稿を拝見できればと存じます。お目にかかれるのを楽しみにしております。感謝します。

2017/01/23

**差出人:** Higashi Akifumi

**宛先:** 小林大三

**件名:**RE: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

ご返事、有難うございます。

まず、予定から、申し上げます。1月27日の早朝の飛行機で、韓国に帰り、次は、3月10頃に、福岡に来ます。「病院の関係」からです。「その間は、不在です」から、「ハンコの必要な郵便」は、受け取れません。ただ、それまでに、「時間がある」ので、「CDの郵便物なら、受け取れる」かも知れません。その場合、「韓国に、持ち帰って、見る」ことになります。

次に、「内容の件」ですが、「引き寄せの法則」については、むかし（＝5年位前）、“神戸の女性”（＝神戸大学の、総合人間学科の、心理学の卒業生）が、「私に、メールして来た」ことがあります。その時、“この法則”が、国際的に、人気がある」ことを、「初めて、知り」、その、次いでに、「私のブログ（＝連載）の一部」に、「理論的な根拠とメカニズムを、図式化して、掲載した」ことを覚えています。

先日の説明において、「ヒーラーが、一般の人に、説明する手法」と、「学問的な、内容の解説」とは、「性質が、全く、異なる」ことについては、あまり、「強調しなかった」わけです。というのは、「ヒーラーのような、実務（＝応用＝ビジネス）を実行している人」は、「“学問的な裏付け”だけを、十分に、“理解した”上」で、「自分の

営業用の言葉で、庶民に、分かり易い方法で、自信をもって、説明すればよい（＝導けばよい）」と思うからです。つまり、「理論を創る人は、その内容を、応用することに対して、自分の関心が、まさしく、超・ゼロの心境である（＝変人！）」ということです。

逆に、「バーバラさんのような実務家には、理論を、創れない」と「私が、“断言している”」のは、「その意味もある」のですが、「もう1つの、“完璧な理由”が、ある」わけです。それは、「物理学は、主体－客体（＝対象物）の関係で、“客体側だけ”を、分析する学問」であり、「主体の側（＝自分）に、立ち入らない原則（＝哲学）を重要視している」ので、「主体側（＝自分）の分析に関しては、“完全に無力”」であり、「この思想が、西欧の、いわゆる、科学・技術の原則」なのです。「現在の生命科学は、分子生物学」ですが、「物理学が基本ですから、生命とは、何か？」に、「答えられない」わけです。

だから、「生命とは、“意識”であり、“個体の自我”である」という「答えを、出せない」わけです。というのは、「物質学が基本」ですから、「目に見えないモノは、証明できないので、存在しない」という具合に、「割り切っている」わけです。だから、「“目に見えない”けれども、“存在する、不思議な現象”について、“言及する”」と、「オカルトである、インチキである！」という具合に、「問答無用で、非難する」ことになります。

だから、「主体側の現象を、理論的に解析できる学問」を、「西欧の価値観とは、“別の名称”で、“説得力のある内容”を、伴った統一的な理論を、確立」し

て、「例えば、“主体の生物学”というような、“新・領域の学問”を、大学において、研究・教育ができる」ように、「大衆に向けて、広報し、かつ、“実現べき”」なのです。

そういう意味で、「小林さんの、超・ゼロ」という「ネーミングは、私の仮説である、“主体の生物学”の、理論の中核になっている」ので、「小林さんには、ヒーラーとして、センスが良い」ので、「成功してもらいたい」と思っています。だから、「完全な理論を、バックにおいて、例えば、海外のノーベル賞の授賞者から、否定的な“質問”を受けても、“完璧に、応答できる”」ような、「立場を、同時に、“確立してもらいたい”」と願っています。

かくして、「応用の宣伝ではなく、学問としての、理論の必要性に関する（＝大学人や知識人に訴えるような）“対談”であるなら、喜んで、参加する予定です。私は、いわゆる、「ビジネスに無関心」であり、「ビジネス活動には、全く、性格的に、不向きな、“社交性のない”、特殊な人間（＝変人？）」なので、「“私の理論”を、完全マスターした、例えば、“好感度”の高い、“女性の人気者”が、登場してくれる」ことを願っています。それまでは、「仕方がないので、老害を、人目にさらす！」ことも、覚悟しています。「小林さんには、その点で、協力」します。多分、「解説のための、図版さへ、うまく造る」ならば、「マンガのように、子供たちにも、説得力のある、解説ができる」と思います。「その点でも、小林さんは、絵描きのセンスがある」ようなので、「新しい、アイデアが出る」かも知れません。

私は、「大学の教養学部の学生（＝1、2年生）が、将来、理系や文系の、どの分野に進む」としても、「どの領域においても、それぞれの、理論を“創れる筋書き”を、持っている」ので、「非常に受ける」と思っています。ただ、「昔は、船井幸雄さん（船井総研という、コンサルト会社の創設者）や、技術出版の社長であった、今となつては、故人である、元・京大卒のコンビが、どういうわけか、私の独創性に目をつけて、“当時の不完全な内容”を、ことごとく、出版・宣伝してくれたので、むしろ、“私の社会的な信用を、無くしてしまった感じ”」が、あります。「完全な理論ができたとき」には、「肝心の、理解者が、この世に、存在していない」というわけです。

だけど、一応は、「東大の医学部や、国立生理学研究所の研究・助手をしていた」ので、「医学部の教授の考え方の特徴については、東大、京大、大阪大、慶応大学などの傾向には、通じている」ところがあり、加えて、「理学部では、教えない、睡眠の研究にも、実験の体験がある」ので、「質問に、答えられないことは、基本的には、専門的な内容でない限り、答えることが、可能」です。

また、「韓国に、定年後、10年間、滞在していた」ので、「大学や大学院の同級生とは、連絡が途絶えています」が、「そのうち、思い出してくれる人も、出てくる？」でしょう。というのは、「ほとんどの、昔の友人は、大学の教授に成っていた」し、「中には、東大の副学長も、務めた人もいる」し、「“歌う生物学者”として、テレビに出る、東工大の教授も、昔は、同部屋で研究していた後輩」です。ただ、「私は、昔の、いわゆる、東大全共闘だったので、1年くらい、府中の刑務所の独

房に、“隔離されていた”（＝当時は、東京の拘置所が、満員だった”ので、犯罪人ではない！）」ことがあります。当時は、「自分の求める学問が、“大学に存在しない”」ので、「こんな大学なら、解体した方がよい」という「主張」であり、「当時の政治的な“全学連”（＝政治犯の、安保闘争）とは、“全く異なる”」わけです。

「大学院の学生の時代に、既に、考え方の、“動機”（＝種）は、あった」のですが、「人に話せる、“筋書き”が、なかった」ので、「暴力学生の、“仲間入”を、した」というわけです。その意味でも、「生きているうち」に、「当時の未完成の時代に、暴徒化した人間が、その種子（＝動機）に基づいて、完全な理論を、定年後に、確立した（＝花を咲かせた！）」ということで、「昔の責任を、“取りたい”（＝公的に、言い訳をしたい）」という、「願望もある」わけです。だから。そのような「方向性がある」とすれば、「対談を歓迎したい」と思っています。

ただ、「説明には、図の説明が、不可欠」であり、「言葉だけでは、説明できない内容が、多い」からです。まさしく、「釈迦が言った」とか言うように、「“あの世”のことは、“言葉”では、“説明ができない”」からです。また、「日本の知識人（＝有名人）は、西欧の価値観をベースにしている、海外の模倣者」なので、「私のオリジナルをベースにした科学は、全く、“考える方法論”を、“持っていない”」のですが、「ファインマンは、日本の友永振一郎と同時に、ノーベル賞を受賞している」ので、「ファインマンの理論、しかも、“漫画のような図版を使う”（＝光子が、鏡で反射して、曲がってくる、という、誰にでも、理解できる図版＝“光と物質の不思議な理

論”；岩波書店) を、使う」と、「有名人は、黙って聞くより、ほかはない」というわけです。

ただ、「私のオリジナル”は、ファインマンの、物理学の解説とは、全く異なる、“独自の見方”を、する」ことで、「釈迦が、“言葉によって、説明でない”」と指摘した、「内容を、完璧に、“図解できる”」ので、「図版を、“多用している”」わけです。しかも、「同時に、バーバラさんの、“宇宙エネルギーとオーラの理論”も、解説できる」し、「私の知る、“引き寄せの理論”も、“バーバラさんの理論”を、“参考にする”（＝バーバラさんの本は、“文字による説明”なので、私のような“メカニズム”には、全く、言及できない）」わけです。

【通信教育で、学術的な、“講義の機会”を、設ける】ことも「学術性を、含む」なら、「大賛成なので、その方向性があるならば、誰か、“第三者的な科学者”（＝物理学でも、生物学でも、工学系の分野でも、OK）も、参加させる」ことを、「お勧め」します。「超能力に対する、インスピレーション」には、「2種類がある」ことを知るべきです。つまり、「超能力を、修行によって、身に付けて、応用する方向（＝ビジネスや人助け）に、生きがいを感じるための、方向性」と、「超能力が存在するのは、当然である、という認識の元に、その内容を、理論化したいと感じる、宇宙の神秘を、解き明かすための、学術的な方向性」のことで、「結局、超能力に対する、インスピレーションだけなら、両方とも、存在する」わけです。

「私は、中卒の職人だったわけで、検定試験で、高卒の免許を取り、大学に入学して、東大の博士号を取得している」わけですから、「東大の安田講堂に残留し

た」のも、「18 歳ころに、現在の理論のモデルを考案して、それを実現するために、高校の勉強を、独学で開始した」わけで、いわば、「インスピレーションの、塊のような存在」なのです。だから、「超ゼロ」という表現は、「本当にセンスが良い」ことがよくわかるし「私の理論の、オリジナルの中核に、対応する」ので、「小林さんには、成功してもらいたい」と考えているわけです。

ただ、「小林さんが、どういう話し方をしているのか？」は、「読んだことも、見たこともない」のですが、「こういう筋書で話す」のが、「素人には、ベストである」という「方向性は、直観的に、分かる」わけです。「東大の心理学の教授も、既に、定年になっている」のですが、「昔の、同僚であり、理論内容も、知っている」わけです。また、「神戸の女性が、“引き寄せ”に、人気がある」ことを、「教えてくれた時も、こういうことが、本当に、あるのか？」という、「質問が、主な内容だった」ので、「図版で、公式を描いて、教えた」わけです。

【公式が、描ける】ということは、「“宗教”も含めて、“超能力の原理”についても、“メカニズムを描ける”」ということなのです。とりあえずは、「ヒーラーは、全体的に、物理学の理論や、生理学や脳科学や行動心理学の学問内容に、基づいている」ことを、「宣伝している」ようですが、「最初に述べたように、物理学の学問では、量子論も含めて、“超能力のメカニズム”には、原理的に、言及できない」わけです。しかし、「ヒーラーにとっては、対象者が、一般の庶民が、患者（＝対象者）」なので、「私は、“その部分”（＝メカニズムが、物理学的な内容である！）には、“

立ち入らない”ということ（＝ビジネスの邪魔を、しない！）を、「完全に、了解してもらいたい」わけです。以上、補足説明をしておきます。よろしく。

2017年1月24日

**差出人:** 小林大三

**宛先:** Higashi Akifumi

**件名:** Re: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

ご連絡、誠にありがとうございます。

東さんのお考えに、全面的に賛同できます。個人（主体）的には、「主体側の現象を、理論的に解析できる学問」を導き出すための着想として、湯川秀樹博士の素領域理論が、思い浮かびます。

物質の構成要素である素粒子は、すべていずれかの素領域の中にしか存在できない。という意味で、身体を含めすべての物質は「霊の中にのみ存在している」といえます。つまり霊があるからこそ物質が存在するのであり、「肉体が霊を宿す」のではなく「霊が肉体を宿す」のであるといえる、ということです。（一元的な神に近い）意識（神意）としての「愛」や「情」が、自分（主体）以外の他の人間の動きに作用するのは、肉体を宿す霊である魂に働きかけることで、素領域から素領域へ変遷していくエネルギー（五次元エネルギー：自称）である素粒子の動きが変わります。

つまり、それらの素粒子から造られる身体が、その変化に見合うように動かされているということです、また素領域理論は、「空間とはなにか？」という物理学において未解明の難問に答えることができるだけでなく、「愛」とか「情」、「奇跡」と呼ばれる自然界の物理法則に反する物理現象が生じるメカニズムまでも記述することができます。

さらに、目に見える現実世界におけるすべての物理現象だけでなく、目には見えない世界でも「愛」や「情」の流れが、いかにして目に見える世界の物理現象に影響を及ぼすのかについて明確に論じていくことができます。

その意味において「超ゼロ」は、五次元と呼ばれる特定の素領域につなぐことで、身体の還元力（中性に導く反重力子）が強化され、根本治癒へ向かわせるための主体的な技術である、と言えるかもしれません。

講義録は、本日の速達で、CDではなくUSB音声データを封書で、郵送しておりますので、明日には、お手元に届きます。それでは、また帰国後に、お目にかかるを楽しみにしております。何卒宜しくお願い申し上げます。

2017/01/18

**差出人:** Higashi Akifumi

**宛先:** 小林大三

**件名:**RE: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

新年おめでとうございます。

約 1 か月間、韓国に滞在していたので、返信メールを見ておらず、返事が、遅れました。昨晚、福岡に帰ってきて、「ブログ紹介に関するご要望」の、内容を知りました。先日のメールは、小林さんの記事（＝「超・ゼロ」の世界というネーミング！）を、偶然見て、「感」の、いい人だな！という印象を持ったので、即座に、メールしただけなのです。今回、初めて、ホームページを拝見して、「キャリアや理念」なども、知ることができました。方向性が、「私と同じ」なので、さらに、好感を持ちました。それで、今後のために、私の具体的な状況も、若干、お知らせしておきます。私は、定年後、生まれ故郷である、韓国のテグ市に、住むようになりました。本籍は、鹿児島県ですが、韓国が、日本の植民地であった時代に、テグ市で生まれた、というだけの、戦後の、引揚者なのです。定年後、韓国に移住したときに、福岡の知人である、開業医（＝九大・医学部卒業）から、突然に、バーバラ・A・ブレナン女史の著書である、「光の手」（河出書房新社）を紹介されて、その内容に、仰天しました。その本に、「超能力に関する、物理学の理論がないので、開発する必要がある」と書いてありました。しかも、「本の内容は、ヒーラーに成るための、「修行の方法」を、書いた内容（＝虎の巻）ですが、「筋書き」は、超能力者だけに、観察できる記述の、オンパレード」であり、「彼女は、物理学者なので、記述・内容も正確であり、説得力もあること」にも、驚きました。ただ、「学術的には、ヒーラーが、理論を創るのは、難しい」と思い、「約十年で、ヒーリング理論を、独自の体験から、完成した」わけで、「その内容は、私のブログに公開してある」のですが、「一般には、理解できない」ようです。だから、「ブログ（＝100枚の図版を使用した、3部作の大論文！）のアドレスも、一般には、知らせない」よう

にしています。というのは、「西洋の科学の常識には、存在しない、私の”オリジナルの概念”が、”車の両輪”のように、”理論の骨格”に成っているからです。ご承知のように、「超能力の才能は、東大や京大などを卒業した、いわゆる、有識者と呼ばれる科学者や知識人の”才能”とは、”異なる才能”が必要な分野」です。だから、「インドのサイババや、日本の知花さん（＝沖縄の出身）」のように、「小学生の時代から、特殊能力を発揮している」のですが、「一般に、学識や教養とは、無縁の人たち」です。その点で、「バーバラさんは、物理学者であり、日本の超能力者である高橋真治（故人）は、工学部の出身で、コンピュータのハードのエンジニアだった」ようです。「高橋真治については、偶然に、彼の弟子たちが記述・講演した内容を、インターネットで見て、一応、読んだのですが、バーバラさんの記事の内容」と、「観察結果が、殆ど、同じである」ことにもビックリしました。しかも、「昔から、私が、”宇宙と人間の関係”について、”探し続けていた内容”が、”超能力者”にとっては、極めて、”明確な観察結果”として、”見える”らしい」ことを知って、「本格的に、理論化してみるための、”心構え”が、できた」というわけです。

そこで、「本題に入りますが、前述のブログにおいて、バーバラさんの実現できる技術（＝ヒーリング）については、全ての神秘的な内容に対して、メカニズムの視点から、”100%の理論的な根拠”を示して、図解している」のですが、「私の、”2つのオリジナル”に関する解説が、不十分であった」ように思います。

「前半と後半の2部に分けて、論文化している最中で、1つ目は完成し、2つ目も、8割がた、完成している」わけです。「大雑把な言い方」をすれば、「”脳の主人”の内容に比べて、100倍くらい、完成度の高い内容」であり、「本格的に、大学の、理工学部や理科系の学部において、”教材”にしてみらいたい」と考えています。理論・内容は、「西欧の科学技術の概念（哲学）に存在しない、”概念”」であり、しかも、「世界で最も著名な大学のテキスト（＝物理学のテキスト）である、ファインマン」の、「晩年の本である、”光と物質の不思議な理論（QED;岩波書店）”の仮想実験を利用して、しかも、物理学者とは異なる、独自の視点から、解説できる」からです。つまり、「私の、2種類のオリジナルも、また、バーバラさ

んの、宇宙エネルギーとヒューマンエネルギー（＝人間のオーラ）の理論も、両方とも、ファインマンの本（ベクトルに関する解説）を活用して、図解できる」わけで、「誰か、1人の、著名な物理学者が、こういう理論（＝私の理論）の存在を知る」ならば、「たちまち、“世界の主流”に成る！？」はずなのです。そういうわけで、「“図解が多い”ので、最近の、“電子出版協会の事務局”に、種々の、“問い合わせ”（＝世界に向けて、理論の骨子を、出版する方法について）を、している最中」なのです。そういうわけで、脳の主人の内容を、小林さんの新聞で、紹介する」よりは、「小林さんのような、センスのある人には、現状の、“完成された理論”を、根本にして、現状の、“超・ゼロ”の、活動の“理論的な背景”に、してもらいたい」と考えています。だから、「2部目が、完成する」まで、「もう少し、待つて下さる」ことを期待します。ともかく、「ヒーリングの世界は、二元論ですから、西欧の科学理論（＝一元論）に、基づく限り、“インチキ”（＝オカルト）と“見なされる”」のは、「“仕方がない”」わけです。だから、「一元論の中核である、アインシュタインやシュレーディンガーと、“二元論に近い”、物理学者である、ファインマンとの、“違い”を、“具体例”によって、“強調するアプローチ”を、採用することで、“ヒーリング理論”を、解説する方が、世界に普及させる目的では、勝負が早い」と思われます。しかも、「現在の主流である、“生命科学”（＝分子生物学＝物質科学）を、“否定する内容”」ではなく、「逆に、統一理論が存在しない生物・医学の分野に、統一理論を提供する結果に成る（＝遺伝子の理論や、iPS細胞を利用する、再生医療などの、いわゆる、“出たとこ勝負”の、“成り行き任せ”の、実験などに対して、“救世主”に成る！）」ので、「物理学だけでなく、生物・医学・脳科学にとっても、好感される」はずなのです。さらに、「天文学で、話題になっている（＝しかし、物理学者には、説明ができない内容！）、暗黒物質（＝ダークマター）や、ダークエネルギー（＝“万有引力”のように、“引き合う力”ではなく、2つの物体を、“引き離す力”＝逆の力）」に対しても、「“独自の、解釈のヒント”を、“提供できる可能性”もある」わけです。「“車の両輪”に相当する部分さへ、理解できる」ならば、「具体論は、全部、ブログで、既に、公開している（＝科学論文にすれば、30本くらいに成る！）」ので、「アドレスを広報すれば、誰でも理解できる」わけです。そういう意味では、「物質科学の領域（＝生命科学）で、“野心”

(=ノーベル賞を狙う!) のある大学、もしくは、論文が書ける、若い科学者に、“私が生きている”間”(=持病の心臓病のために、福岡・博多の、“原・三信病院”(=先日、タクシーが、待合室に激突(=突入)して、全国放送された”有名な病院”=福岡の知人である、“前述の医師”の紹介!) の、隣のビルに、仮住まい”、している!) に、理解するための、“キーポイント”を、“知らせてあげたい”(=センスがある人なら、“2時間の講義”=無料で、充分?) 」と思っています。ヒーラー も、まずは、「大学で、正式に教育でき”る」ように、「努力すべきだ」と思いますね。というのは、「ヒーリングは、応用分野であり、理論がなくても、ビジネスが可能な分野」ですから。しかし、「ヒーラーとしての、実力があるほど、バーバラさんのように、理論(=西欧の医学のように、大衆に、説明できる内容)が、欲しくなる」わけです。「バーバラさんの本は、その筋では、国際的なベストセラーのようで、彼女の専門学校(=4年制)を卒業した日本人も、10人くらいはいる」ようです。だけど、「1年間で、1千万円の費用が掛かる」ようで、「1年間で、1千万円なら、“私立大学の医学部”と、同じ程度の費用である」と、「“九大の研修医”として、“病院に来ていた女医さん”が、言っていました」ネ。それにしても、「この”分野の人”(=バーバラさんの弟子?) は、“私のメール”に、全く、“応答しない”」ですね。「科学者が、一般的には、全員、ヒーラーを、“相手にしない”(=インチキと見なす?) 」ことに、「原因がある?」のか、「驚き」ですネ。「この辺の事情も、教えてもらいたい」と、「京都の私立大学では、立命館大学と同志社大学が有名ですが、立命館大学には、“理工学部”(=生命科学だけでなく、“情報理論”としても、通用する!) は、“ない”(=知り合いの、“後輩教授”は、いない?) 」ですかね。そういう意味でも、「1度、会って、話をしたい」と思っているわけです。ただ、「定期的な診察・検査(=1か月の単位)が終わる」と、「韓国の方が、集中しやすい」ですから、しばしば、「韓国に帰るので、福岡に居ない場合が多い」わけです。今日は、長いメールに成り、すみません。では、また。

2017年1月23日

**差出人:** 小林大三

**宛先:** Higashi Akifumi

**件名:** Re: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

寒中お見舞い申し上げます。

お返事、誠にありがとうございます。

東さんの具体的な状況と見解を理解させていただきました。つきましては、前年度末に神戸市内の整形外科勤務のプロヒーラーに行った超0ゼロ療術の講義録（16時間程度）をお聞きいただくことで、「超能力に関する、物理学の理論」構築に際しましてのインスピレーションをさらに深めていただけるのではないかと推察しております。また、現在、準備を進めている一般の方にも幅広く活用が可能な通信講座（仮名）『引き寄せの法則「進化系」—限界を突破して、自分の生きたい人生を手に入れる方法—』などの内容も含めまして、ぜひ一度、福岡での対談が実現出来ると幸いです。差し支えないようでしたら、送付先を連絡いただければ、ただちに発送いたします。何卒よろしく願い申し上げます。

2016/12/12

差出人: Higashi Akifumi

宛先: 小林大三

件名: RE: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

ご返事を頂き、有難うございます。「超ゼロ」という発想には、感心しました。「ゼロという視点は、睡眠学会の、ビジランス・ゼロの、ゼロ（＝横線の基準）と、同じ」なのですが、「“超ゼロ”というのは、横線の幅が広く成って、線の内部に、“ゼロの空間が、拡大する”」というイメージであり、「夕日が、西の水平線に沈む時に、仏教で、水平線の向こう側に、“浄土がある”」という発想に照らした表現なのです。従って、「私のイメージでは、ゼロの横線の幅が広く成って、横線の内側に、“この世とは別”の、“ゼロの空間”である、“あの世の、神の光”が、見え始める」という印象です。だから、「超ゼロは、“あの世”の空間が、見える」ように成り、「“神の光”が、見えるように成る」という意味で、「“超能力の世界”に、潜入できた（＝仏教関係者は、“悟りの世界”というようですが、・・・）」ことを意味します。

しかし、「神の光が湧き出す“源泉”が、見える」という事実には、「正直、驚きました」ね。というのは、「こういう、“知的な情報の、中心的な存在場所”が、宇宙には、存在するはずである」という、「確信めいたモノが、昔から、あった」からです。ただ、「源泉の内部の、物理現象のメカニズムまでは、立ち入っていない」ですね。「脳の主人」では、「互いに拮抗する、1対の合成ベクトルの加算（＝ベクトル加算）によって、“自我の大きさ”を、表現できる」という、「事例（＝意識の姿・形を、見えるような形で、示せる）を、説明してある」だけです。

ただ、その時は、「結論的な、“個体の自我”だけの、表現だった」のですが、「バーバラさんの本を読んでから、神の光の流れが観察できる」と書いてあったので、「私のオリジナルでは、“細胞の自我”の加算によって、“個体の自我”が、形成される」

という、「"自我の形成メカニズム"を、明確にした」というわけです。「自我の形成メカニズムは、正常の場合」ですが、「超能力の、スーパーパワーのメカニズムを説明する」ためには、「"個体の自我"が、"スーパーな状態"に、"成長するメカニズム"を明確にする必要がある」わけです。そこで、「"第3のベクトル"（＝自我の大きさ）が、ゼロの線に収まりながら、2種類の拮抗する合成ベクトルの大きさが、加算すれば、ゼロの状態を保ちながら、どんどん"大きくなる"という「公式を、図解できる」わけです。つまり、「"ゼロの状態が、拡大する"という意味で、「まさしく、"超ゼロ"」の状態に相当します。

「結果的に、バーバラさんの超能力現象の全部を、メカニズムで表現した（＝ブログが、公開されている）」ので、「論文にすると、約30本くらいに成る（＝図版の数は、約100枚）」のですが、「何しろ、定年後に、10年をかけて、完成した理論」ですから、「英文化や図版のコンピュータ化の、エネルギーは、もはや、残っていない」というわけです。かくして、「"後続の研究者"を、探している」のが現状です。「現状では、西欧の科学に、欠落している視点を、明確にする」ことが「急務」で、「源泉の内部に関する、理論的な、仮説もある」ようですが、「物理学だけでは、"生命＝自我"の、知性の中身は、説明できない」ように思いますね。というのは、「私の仮説の大部分は、生物学の、発生学や脳科学の現状の欠点」に、「基づいています」から。

そういうわけで、「物理学者であるバーバラさんには、超能力の理論の作成は、元々、無理である」と思いますね。むしろ、「ヒーラーの実力の向上」と、「科学的な分析力の向上」は、「反比例する」ように思います。「メカニズムが分かると、この意味が、明確に成る」と思います。たまたま、「源泉の内部の物理学的な図解が示してある記事」を見たのですが、「その中に、私の仮説（＝階層理論と、知性の中心が、宇宙には存在する、というイメージ）が、"引用されている"」のには、ビックリしました。以前に書いた本は、「結論が見えない時代の、手探りの推論」ですから、「あまり、勧めたくはない」のですが、「現状のブログは、字数制限が厳しくて、科

学論文としての、区切りが出来ない状況」なので、「こちらも、大々的に公開できずに、悩んでいる」ところです。

ただ、「キーに成る論文の原稿（＝未発表）は、出来ている」ので、「そのうちに、多分、ご紹介する」ことになるでしょう。「“今現在”という時間は、“瞬間”か、それとも、“一生涯”（＝死ぬまで、今現在しか、感じる事が出来ない）であるのか？」という、「疑問に、明確な、答えを出せる、モデル理論（＝オリジナル）」です。「結論的に、あの世の“仏の観測者”が、この世の、“人間の一生涯の時間”を、“今現在として、感じる”」ように、「“決定している”」という、「因果関係が、明確に成る」わけです。かくして、「超能力者が、宇宙（＝あの世）に、霊太陽や源泉が見える」という事実を、「私の時間に関する、モデル理論から、保証している」というわけです。

現在、「心臓の持病の治療で、福岡に住んでいる（＝仮住まい）」ので、「九州に来る時は、声をかけてくださる」とありがたいです。

**差出人:** 小林大三 2016年12月15日  
**宛先:** Higashi Akifumi  
**件名:** Re: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

詳細にありがとうございます。頂いた観点からの解説を、本日手元に届いたご著書とともに、ブログで紹介させて頂くことは可能ですか？宜しければ、運営ブログなどありましたら、そちらも併せてご案内いたします。

福岡出張の折には、ご連絡差し上げます。

2016/12/11

差出人: Higashi Akifumi

宛先: 小林大三

件名: RE: メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

前略。「超ゼロ」とは、「睡眠と覚醒の“境界”を示す、“ビジランス・ゼロ”の横線（＝国際睡眠学会の公式用語）の意味と、“同じ”ではないのか？」という印象を持ちました。私の本（＝脳の主人）に、「睡眠化・合成ベクトルと覚醒化・合成ベクトルの、両方の大きさが、“同じ”に成る」と、「第3の合成ベクトル（＝自我・意識の大きさ）が、ゼロ」になり、「その後、“超能力”が、「睡眠化・合成ベクトルと覚醒化・合成ベクトルの、両方の大きさが、“より、大きくなる”につれて、“超能力のレベル”も“上昇する”」という、「定量的な表記法」です。「図版がある」ので、「教育（＝素人に対する説明）に便利ではないのか？」という印象を持ちました。「脳の主人」では、「合成ベクトルの元に成る、単位ベクトルの発生源について、説明できなかつた」のですが、「光の手（＝河出書房新社；バーバラ・アン・ブレナン女史の著作）」を読んで、「超能力者には、“神の光”（＝太陽の光子よりも、粒子が小さい、という意味の名前）が、実際に観察できる」ことを知りました。しかも、「宇宙（＝あの世）には、“神の光”が湧き出す“源泉”が存在する」ことが書いてあります。「これは、日本の超能力者である高橋真次（＝故人）の、“霊太陽”と、同じ内容」です。そこで、「ファインマンの仮想実験（＝単位ベクトルの理論）を、“光子”の“見える化”（＝可視化）である」という具合に理解すると、「超能力のメカニズム、瞑想のメカニズム、・・・など、“精神科学の統一理論”が、可能に成る」わけです。「バーバラさんの本には、超能力の理論がない」と書いてあったので、「私が、創り出した」というわけです。多分、「納得がいく」ような気がします。“実戦家”（？）として、研究して見たらどうですかね。

2016年12月12日

**差出人:** 小林大三

**宛先:** Higashi Akifumi

**件名:** メッセージ頂き、誠にありがとうございます。

東晃史様

「超0」の起動メカニズムは、ご印象の通りかとも感じます。また「"神の光"が湧き出す"源泉"」には、主に反重力子（スカラー波）や磁石子（マイナスS極単極子）といった素粒子との関連が深いと思いますが、「脳の主人」を購入しましたので、「"超能力のレベル"」を「定量的な表記法」を用いて研究出来れば幸いです。

小林大三